平成 22 年度に実施した高等専門学校機関別
認証評価に関する検証結果報告書

平成 24 年１月

独立行政法人　大学評価・学位授与機構

はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、認証評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、平成 17 年 7 月に文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）となって以降、はじめての経験となった平成 17 年度実施の高等専門学校機関別認証評価において、評価の終了後、評価対象校及び評価担当者へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行った。この結果、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握でき、平成 18 年度実施の認証評価に反映させた。同様に平成 18、19、20 年度実施の高等専門学校の機関別認証評価においても評価終了後、アンケート調査を実施し、検証を行いそれぞれ平成 19、20、22 年度実施の認証評価に改善点等を反映させた。（この検証結果は年度毎に「高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書」としてまとめている。）

平成 22 年度実施の高等専門学校機関別認証評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、ここに平成 22 年度実施の認証評価（２高等専門学校）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。

目　　次

はじめに

Ⅰ　機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要・・・・・・・・・　１

Ⅱ　平成22年度実施の認証評価に関する検証

　１．検証の実施方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

　２．項目別の検証

　　（１）評価基準及び観点について・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
　　（２）説明会・研修会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
　　（３）自己評価書について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
　　（４）書面調査・訪問調査について・・・・・・・・・・・・・・・・　12
　　（５）評価結果（評価報告書）について・・・・・・・・・・・・・・　15
　　（６）評価の効果・影響について・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
　　（７）評価の作業量等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
　　（８）評価についての全般的な意見・感想について・・・・・・・・・　25

　３．総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26

参考資料

　１　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
　２　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
　３　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
　４　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
　５　認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】
　６　認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】

Ⅰ　機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要

平成 22 年度に実施した認証評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した高等専門学校の機関別認証評価の概要について触れておく。

高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関し、７年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられている（学校教育法第 109 条、同法第 123 条及び学校教育法施行令第 40 条）。

機構は、この認証評価制度の下で、高等専門学校の認証評価を行う「認証評価機関」として、平成 17 年７月、文部科学大臣から認証され、平成 17 年度より認証評価を開始した。平成 22 年度実施の認証評価は６年目の実施にあたる。

１．目的

認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行った。

（１）機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。

（２）評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。

（３）高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

２．実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校の状況に応じた評価部会等を編成した。

評価部会等には、各高等専門学校の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象高等専門学校の学科等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

３．方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

（１）高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、「自己評価実施要項」に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成し、機構に提出した。

（２）機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

① 書面調査は、「評価実施手引書」に基づき、対象高等専門学校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象高等専門学校の状況を調査・分析した。

② 訪問調査は、「訪問調査実施要項」に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。

③ 基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、高等専門学校全体として、その基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにした。

なお、基準の多くが、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。基準を満たしているかどうかの判断は、その基本的な観点の分析状況を総合した上で、基準ごとに行った。

④ 基準を満たしているもののうち、その取組が優れていると判断される場合や、基準を満たしているが、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。

⑤ 高等専門学校全体として、すべての基準を満たしている場合に、機関としての高等専門学校が機構の高等専門学校評価基準を満たしていると認め、その旨を公表した。（一つでも満たしていない基準がある場合には、高等専門学校全体として高等専門学校評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表することとしている。）

４．スケジュール

（１）平成 21 年６月に、平成 22 年度に機構が実施する認証評価に申請を予定している高等専門学校のうち、説明を希望する高等専門学校の関係者に対し、高等専門学校機関別認証評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、当該高等専門学校の自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。

（２）平成 21 年７月から９月にかけて、以下の２高等専門学校から申請を受け、評価を実施することとなった。

○ 国立高等専門学校（１高等専門学校）

沖縄工業高等専門学校

○ 公立高等専門学校（１高等専門学校）

大阪府立工業高等専門学校

（３）平成 22 年６月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、高等専門学校評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

（４）平成 22 年６月末に、対象高等専門学校から自己評価書の提出を受けた。

（５）対象高等専門学校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは次のとおりであった。

22 年７月	書面調査の実施
８月	評価部会、財務専門部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～11 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象高等専門学校の状況を調査）
12 月	評価部会、財務専門部会の開催（評価結果（原案）の作成）

（６）これらの調査結果を踏まえ、平成 23 年１月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

（７）評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 23 年３月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

５．評価結果

平成 22 年度に認証評価を実施した２高等専門学校のすべてが、機構の定める高等専門学校評価基準を満たしているとの評価結果となった。

機構はこの評価結果を平成 23 年３月 25 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 高等専門学校評価基準（機関別認証評価）は機構ウェブサイトを参照のこと。
http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/index.html

Ⅱ　平成 22 年度実施の認証評価に関する検証

１．検証の実施方法

（1）アンケート調査の実施

平成 22 年度実施の認証評価の対象高等専門学校（以下「対象校」という。）及び評価担当者に対し、記名選択式回答（５段階・２段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

アンケート調査項目は次のとおりである。

〔対象校〕

１．評価基準及び観点について
２．評価の方法及び内容について
　（１）自己評価について
　（２）訪問調査等について
　（３）意見の申立てについて
３．評価の作業量、スケジュール等について
　（１）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について
　（２）評価作業に費やした労力について
　（３）評価のスケジュールについて
４．説明会・研修会等について
５．評価結果（評価報告書）について
　（１）評価報告書の内容等について
　（２）自己評価書及び評価報告書の公表について
　（３）評価結果に関するマスメディア等の報道について
６．評価を受けたことによる効果・影響について
７．評価結果の活用について
８．評価の実施体制について
９．その他

〔評価担当者〕

１．評価基準及び観点について
２．評価の方法及び内容・結果について
　（１）自己評価書について
　（２）書面調査について
　（３）訪問調査について

（４）評価結果について

３．研修について

４．評価の作業量、スケジュール等について

（１）評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について

（２）評価作業に費やした労力について

（３）評価作業にかかった時間数について

５．評価部会等の運営について

６．評価全般について

（２）アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査項目から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

（１）評価基準及び観点について

（２）説明会・研修会について

（３）自己評価書について

（４）書面調査・訪問調査について

（５）評価結果（評価報告書）について

（６）評価の効果・影響について

（７）評価の作業量等について

（８）評価についての全般的な意見・感想について

※アンケート調査に係る補足事項

１．アンケート用紙配付日程

	平成 22 年度
対象校	平成 23 年３月 25 日
評価担当者	平成 22 年 12 月 27 日

２．平成 22 年度アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	２校中２校	100%
評価担当者	９名中７名	78%

２．項目別の検証

（１）評価基準及び観点について

機構が定める評価基準及び観点の構成や内容が、高等専門学校の教育研究活動等に関する「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして適切であったか、また、評価基準及び観点の中で対象校が自己評価を行う際に評価しにくいもの、評価担当者が評価しにくいものがあったかどうかなどについて検証を行った。

①評価の目的等との関係について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等の質を保証するために適切であった」（機関１−①、評１−①※）か及び「教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」（機関１−②、評１−②）か質問したところ、「質の保証」に対して、対象校では２校とも「そう思う」と回答し、評価担当者では、肯定的な回答が 85%（「強くそう思う」14%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が 14%であった。「改善の促進」に対しては、対象校では２校とも「そう思う」と回答し、評価担当者では肯定的な回答が 86%（「そう思う」86%）、「どちらとも言えない」が 14%であった。

一方、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった」（機関１−③、評１−③）かとの質問に対しては、対象校では「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校、評価担当者では肯定的な回答が 57%（「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が 43%であった。

次に、評価基準及び観点の構成や内容を、「教育活動を中心に設定していることは適切であった」（機関１−④、評１−④）かとの質問に対しては、対象校では「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、評価担当者では、肯定的な回答が 86%（「強くそう思う」29%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が 14%であった。

②具体の評価基準及び観点について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価しにくい評価基準又は観点があった」（機関１−⑤）か質問したところ、２校とも「ない」と回答した。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「評価しにくい評価基準又は観点があった」（評１−⑤）か質問したところ、「ある」が 57%、「ない」が 43%であった。

次に、対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「内容が重複する評価基準又は観点があった」（機関１−⑥、評１−⑥）か質問したところ、対象校では

※「機関○−○」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】」における番号に対応
「評○−○」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】」における番号に対応

２校とも「ない」と回答し、評価担当者では「ある」が 57%、「ない」が 43%であった。

③評価と課題

評価基準及び観点の構成や内容は、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、高等専門学校の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね適切なものと考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であると考えられる。

評価しにくい、内容が重複する評価基準又は観点があったかについては、対象校から肯定的に評価されている。また、一部の評価担当者から、自由記述において、財務に関する基準以外にも教育の視点から外部の教育資源の活用について分析する観点が新たに必要ではないか、基準９（教育の質の向上及び改善のためのシステム）において重複する観点を統合してはどうかとの意見が寄せられている。機構においてはこれまで寄せられた意見等を踏まえ、平成 23 年度実施分より、外部の教育資源の活用について分析する観点を基準 11 に追加し、基準９において重複する観点を統合するなど、評価基準や観点を見直しており、現時点ではこれらの意見については概ね改善されたと考えている。なお、今後も引き続き一定の時期に評価基準及び観点の見直しを行うとともに、『自己評価実施要項』の見直しなどを行い、対象校の評価基準及び観点の理解を深めるような工夫が求められると考えられる。

（２）説明会・研修会について

高等専門学校の関係者を対象に実施している説明会や、機構の評価を希望する高等専門学校の自己評価担当者等を対象に実施している研修会について、その有効性等の検証を行った。また、評価担当者を対象に実施している研修の内容の適切性等について検証を行った。

①認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価説明会に関して、「説明会の内容は役立った」（機関４−③）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。また、説明会の内容及び配付資料について、「説明会の内容は理解しやすかった」（機関４−②）かと質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「説明会の配付資料は理解しやすかった」（機関４−①）かと質問したところ、２校とも「そう思う」と回答した。

次に、自己評価担当者等に対する研修会に関して、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った」（機関４−⑥）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。また、研修会の内容及び配付資料について、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった」（機関４−⑤）かと質問したところ、２校とも「そう思う」と回答し、「自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった」（機関４−④）かとの質問については、２校とも「そう思う」と回答した。なお、「機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った」（機関４−⑦）かと質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。

さらに、訪問説明に関して、「機構が行った訪問説明は役立った」（機関４−⑧）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答した。

また、「説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった」（機関４−⑨）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。

②評価担当者に対する研修について

評価担当者に対するアンケート調査において、「研修の内容は役立った」（評３−③）か質問したところ、肯定的な回答が 83％（「強くそう思う」33％、「そう思う」50％）、「どちらとも言えない」が 17％であった。

研修の説明内容について、「研修の説明内容は理解しやすかった」（評３−②）かとの質問については、肯定的な回答が 83％（「強くそう思う」33％、「そう思う」50％）、「どちらとも言えない」が 17％

また、研修の配付資料等について「研修の配付資料は理解しやすかった」（評３−

①）かとの質問については、肯定的な回答が 83％（「強くそう思う」33％、「そう思う」50％）、「どちらとも言えない」が 17％であった。また、「自己評価書のサンプルの提示は役立った」（評３-④）かとの質問については、肯定的な回答が 83％（「強くそう思う」33％、「そう思う」50％）、「どちらとも言えない」が 17％であった。

次に、研修時間について「研修に費やした時間の長さは適切であった」（評３-⑤）か質問したところ、肯定的な回答が 84％（「強くそう思う」17％、「そう思う」67％）、「どちらとも言えない」が 17％であった。

③評価と課題

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会については、対象校から肯定的に評価されており、説明会・研修会の実施内容、配付資料等のほか、訪問説明や機構の事務担当者の対応は適切であると考えられる。

また、評価担当者に対する研修については、評価担当者から肯定的に評価されており、研修の実施内容、説明内容や配付資料のほか、自己評価書のサンプルの提示、研修の時間は適切であると考えられる。

（３）自己評価書について

評価の実施に当たり対象校が作成した自己評価書が、機構の定める評価基準及び観点に基づき、評価を行う上で適切なものとなっていたか、また、添付資料が適切であったかなどについて検証を行った。

①自己評価書の記述について

対象校に対するアンケート調査において、「評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた」（機関２－（１）－①）か質問したところ、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた」（評２－（１）－②）か質問したところ、肯定的な回答が 34%（「強くそう思う」17%、「そう思う」17%）、「どちらとも言えない」が 33%、否定的な回答が 33%（「そう思わない」33%）であった。

また、対象校に対するアンケート調査において、「貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた」（機関２－（１）－④）か質問したところ、２校とも「どちらとも言えない」であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「対象校の自己評価書は理解しやすかった」（評２－（１）－①）か質問したところ、肯定的な回答が 14%（「強くそう思う」14%）、「どちらとも言えない」が 43%、否定的な回答が 43%（「そう思わない」43%）であった。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の完成度は満足できるものであった」（機関２－（１）－⑤）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった」（機関２－（１）－⑥）か質問したところ、「そう思う」が２校であった。

このほか、「自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした」（機関２－（１）－⑦）かとの質問については、２校とも「参考にした」であった。

②自己評価書の添付資料について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた」（機関２－（１）－②）か質問したところ、２校とも「そう思わない」であった。

また、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」（機関２－（１）－③）かとの質問については、「迷った」が１校、「迷っていない」

が１校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」（評２－（１）－③）か質問したところ、肯定的な回答が 57%（「強くそう思う」14%、「そう思う」43%）、「どちらとも言えない」が 14%、否定的な回答が 29%（「そう思わない」29%）であった。

③評価と課題

自己評価書の記述について、対象校では評価基準及び観点に基づいた適切な自己評価により、わかりやすく完成度の高い自己評価書が作成されたと概ね認識しているが、一部の評価担当者からは、記述内容の適切さや理解しやすさについて否定的な回答も寄せられており、引き続き対象校の評価基準及び観点の理解を深めることが必要である。また、対象校においても自己評価書の記述が明確で理解しやすいかなどを全基準を通してチェックする担当者を置くなどの対応が望まれる。なお、自己評価書作成に当たっての文字数制限については、適切な量であったと考えられる。このほか、自己評価書の作成に当たっては、対象校はすでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考としていることがわかる。

また、対象校から、既に蓄積した資料で添付資料に十分対応できたかについて、否定的な回答も寄せられており、この点については、対象校が評価の経験を積み重ねることにより、徐々に解消されると期待されるが、機構としても、引き続き、研修会や説明会を通じて、自己評価書作成に当たっての留意点についての資料（特に根拠となる資料・データ等の例）や説明を工夫するなど、きめ細やかな対応が求められる。このほか、自己評価書の根拠資料については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、自己評価書に適切な根拠資料が概ね引用・添付されていると考えられる。

（４）書面調査・訪問調査について

対象校から提出された自己評価書等に基づき、評価部会において評価担当者が対象校の状況を分析する書面調査について、分析の方法、事実誤認の有無を確認するために通知する「書面調査による分析状況」の内容が適切であったかについて検証した。また、書面調査の後、対象校を訪問して書面調査では確認できない事項等を中心に調査する訪問調査について、その内容や方法、あらかじめ通知する「訪問調査時の確認事項」の内容が適切であったかなどについて検証を行った。

①書面調査による分析について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった」（機関２－（２）－①）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答した。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、書面調査の分析内容を記入するために、「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」（評２－（２）－④）か質問したところ、肯定的な回答が 57%（「強くそう思う」14%、「そう思う」43%）、「どちらとも言えない」が 29%、「そう思わない」が 14%であった。

また、「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった」（評２－（２）－⑤）か質問したところ、肯定的な回答が 28%（「強くそう思う」14%、「そう思う」14%）、「どちらとも言えない」が 71%であった。

②訪問調査時の確認事項について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった」（機関２－（２）－②）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答した。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった」（評２－（３）－①）か質問したところ、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」17%、「そう思う」83%）であった。

③訪問調査の実施内容について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く）が質問した内容は適切であった」（機関２－（２）－③）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。

また、「訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）は適切であった」（機関２－（２）－④）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そ

う思う」が１校であった。評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）は適切であった」（評２－（３）－③）か質問したところ、肯定的な回答が 84%（「強くそう思う」17%、「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が 17%であった。

次に、「訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた」（評２－（３）－②）かとの質問については、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」50%、「そう思う」50%）であった。

さらに、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」（機関２－（２）－⑤）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」（評２－（３）－④）か質問したところ、肯定的な意見が 83%（「強くそう思う」50%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が 17%であった。

④訪問調査時の人数・構成等について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（機関２－（２）－⑥）か質問したところ、２校とも「そう思う」であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（評２－（３）－⑤）か質問したところ、肯定的な回答が 67%（「強くそう思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が 17%、否定的な回答が 17%（「そう思わない」17%）であった。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う」（機関２－（２）－⑦）か質問したところ、１校が「強くそう思う」、１校が「そう思う」と回答している。

また、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった」（評２－（３）－⑥）か質問したところ、肯定的な回答が 83%（「強くそう思う」50%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が 17%であった。

⑤評価と課題

書面調査による分析については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、訪問調査の前に提示した「書面調査による分析状況」の内容や機構が示した書面調査票等の様式は概ね適切であると考えられる。また、書面調査に際して、参

考となる情報（客観的データ等）は必ずしも必要ではなく、自己評価書及び添付資料で十分であると考えられる一方で、自由記述において、財務に関するデータの推移表を添付して欲しいとの意見が寄せられており、今後も要望を把握していくことが求められる。

また、訪問調査時の確認事項については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、訪問調査の前に提示した「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校の回答内容については適切であったと考えられる。

次に、訪問調査の実施内容については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、訪問調査時の評価担当者による質問内容や具体的な実施内容は概ね適切であると考えられる。ただし、対象校から自由記述において、訪問調査に係る事前連絡の徹底を求める意見もあったため、対象校との連携を密にするなど、訪問調査の実施方法についての工夫が求められると考えられる。また、訪問調査によって不明な点を十分に確認でき、機構の評価担当者と対象校との間で教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができていると考えられる。

さらに、訪問調査時の人数・構成等については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成、機構の事務担当者の対応は概ね適切であると考えられる。

（５）評価結果（評価報告書）について

機構の作成した評価報告書の内容や意見申立ての実施方法等が適切なものであったかについて検証を行った。

①評価報告書の内容について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった」（機関５－（１）－⑨）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答した。

次に、評価報告書の内容は「貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった」（機関５－（１）－①）か、「貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった」（機関５－（１）－②）か、「貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった」（機関５－（１）－③）か質問したところ、「質の保証」については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「改善の促進」については、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校、「社会からの理解と支持」については、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた」（機関５－（１）－⑦）か質問したところ、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった」（機関５－（１）－④）か、「評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった」（機関５－（１）－⑤）か質問したところ、いずれも「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。

また、「評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった」（機関５－（１）－⑥）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答した。

さらに、評価報告書の記述について、「評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった」（機関５－（１）－⑧）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答した。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」（評２－（４）－①）か質問したところ、肯定的な回答が 83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が 17%であった。

次に、「基準１から基準 11 の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった」（評２－（４）－②）か質問したところ、肯定的な回答が 67%（「強くそう思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が 17%、否定的な回答が 17%（「そう思わない」17%）と回答した。「評価報告書の最初に、

全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった」（評２－（４）－④）かとの質問については、肯定的な回答が 83％（「強くそう思う」17％、「そう思う」67％）、「どちらとも言えない」が 17％であった。

また、「評価結果全体としての分量は適切であった」（評２－（４）－③）か質問したところ、肯定的な回答が 83％（「強くそう思う」17％、「そう思う」67％）、「どちらとも言えない」が 17％であった。

②評価報告書等の公表について

対象校に対するアンケート調査において、「今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している」（機関５－（２）－①）か質問したところ、２校とも「公表していない」と回答している。

また、「評価報告書をウェブサイトなどで公表している」（機関５－（２）－②）かとの質問については、２校とも「公表していない」と回答している。

次に、「評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた」（機関５－（３）－①）か質問したところ、「どちらとも言えない」が１校、「全くそう思わない」が１校であった。

③意見の申立てについて

対象校に対するアンケート調査において、「意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった」（機関２－（３）－①）かと質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。

また、「「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載したことは適切であった」（機関２－（３）－②）かと質問したところ、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

④評価と課題

評価報告書の内容については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らし、概ね適切なものであると考えられる。また、教育研究活動に関して新たな視点が得られるものであり、構成及び内容がわかりやすく、評価担当者の書面調査、訪問調査の内容が評価結果に十分反映されており、評価の方法や全体の分量、記述形式、総じて評価報告書の内容は概ね適切なものであったと考えられる。

評価報告書等の公表については、対象校から公表していないとの回答が寄せられており、一部の対象校はアンケート回答後に公表しているものの、対象校において

も社会からの理解と支持のために速やかに公表されることが望まれる。マスメディア等による報道の適切性については、一部の対象校から否定的な回答が寄せられており、機構としては報道発表の場で認証評価の評価結果を発表するとともに、認証評価の意義等を説明しているものの、その点についてマスメディアの理解が十分であるとは言えないため、認証評価制度や機構の行う評価の趣旨や内容について理解が得られ、適切に報道されるよう、引き続きわかりやすく説明していく必要がある。

今回の機関別認証評価において意見申立てを行った対象校はなかったが、意見の申立ての実施方法、内容や対応の評価報告書への記載については概ね適切であると考えられる。

（６）評価の効果・影響について

今回の評価のために自己評価を実施したことや評価結果を受けたこと、対象校に対して評価を実施したことがどのような効果・影響を与えたか、また評価結果をどのように活用しているかについて検証を行った。

①自己評価を行ったことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価を受けるに当たって自己評価を行ったことによる効果・影響について、「貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた」（機関６－（１）－①）かと質問したところ、２校とも「そう思う」と回答しており、「貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた」（機関６－（１）－②）かと質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。

次に、教職員の意識への効果・影響について、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した」（機関６－（１）－③）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答した。「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した」（機関６－（１）－④）か、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した」（機関６－（１）－⑨）か、との質問については、いずれも「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した」（機関６－（１）－⑩）か、との質問については、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

さらに、「貴校の教育研究活動等の改善を促進した」（機関６－（１）－⑤）か、「貴校のマネジメントの改善を促進した」（機関６－（１）－⑦）かとの質問については、いずれも２校とも「そう思う」と回答している。

また、「貴校の個性的な取組を促進した」（機関６－（１）－⑧）か、「貴校の将来計画の策定に役立った」（機関６－（１）－⑥）か質問したところ、いずれも「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

②評価結果を受けたことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、評価結果を受けて今後どのような効果・影響があるかについて、「貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる」（機関６－（２）－①）か、「貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる」（機関６－（２）－②）かとの質問については、いずれも２校とも「そう思う」と回答した。

次に、教職員の意識への効果、影響について、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する」（機関６－（２）－③）か、「各教員の教育研究

活動等に取り組む意識が向上する」（機関６－（２）－④）か、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する」（機関６－（２）－⑨）か、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する」（機関６－（２）－⑪）かとの質問については、いずれも「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「教職員に評価結果の内容が浸透する」（機関６－（２）－⑩）か質問したところ、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

さらに、「貴校の将来計画の策定に役立つ」（機関６－（２）－⑥）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「貴校の個性的な取組を促進する」（機関６－（２）－⑧）かと質問したところ、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「貴校の教育研究活動等の質が保証される」（機関６－（２）－⑫）かとの質問については、２校とも「そう思う」であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う」（評６－①）か質問したところ、肯定的な回答が 86%（「強くそう思う」29%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が 14%であった。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「貴校の教育研究活動等の改善を促進する」（機関６－（２）－⑤）か、「貴校のマネジメントの改善を促進する」（機関６－（２）－⑦）かと質問したところ、いずれも２校とも「そう思う」と回答した。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う」（評６－②）か質問したところ、肯定的な回答が 85%（「強くそう思う」14%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が 14%であった。

次に、「学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる」（機関６－（２）－⑬）か質問したところ、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であり、「広く社会の理解と支持が得られる」（機関６－（２）－⑭）かとの質問については、「そう思う」が１校、「そう思わない」が１校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う」（評６－③）か質問したところ、肯定的な回答が 57%（「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が 29%、否定的な回答が 14%（「そう思わない」14%）であった。

また、「他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする」（機関６－（２）－⑮）かとの質問については、「そう思う」が１校、「そう思わない」が１校であった。

③評価結果の活用について

対象校における今後の評価報告書の活用予定について質問（複数回答可）したところ、「貴校の広報誌に評価結果を掲載する」が１校、「貴校のウェブサイトで評価

結果を公表する」が２校であった。

また、機構の評価を受けたことを契機に、実施を予定している（または実施済みの）変更・改善の取組として、対象校から次の事例が挙げられた。なお、文末【　】内の数字は、変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度を対象校が示したものである。

【５：非常に参考になった～３：参考になった～１：あまり参考にならなかった】

（基準３）「教員及び教育支援者」

・　技術職員のうち派遣職員に関しては、入札制度の契約の下では派遣会社の変更があるなど、教育の円滑な実施面や教員の過度な負担の面などで教育に支障をきたし、また、安全面でも懸念がある。

（変更・改善）契約職員として継続性を担保できる方向で検討中。【３】

（基準６）「教育の成果」

・　教育目標の達成度の把握。

（変更・改善）卒業生に対する卒業時アンケートの内容を改善した。【５】

（基準７）「学生支援等」

・　オフィスアワーのあり方。

（変更・改善）本校の現状に合わせて、いわゆるオフィスアワーを無くし、学生がいつでも質問や相談出来る体制にした。【５】

④評価と課題

対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響については、対象校から肯定的に評価されており、教育研究活動等の全般的な状況や今後の課題の把握、改善の促進、評価に関する教職員の知識や技術の向上、教育研究活動の組織的な運営や自己評価の重要性の浸透、意識の向上、個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与について、概ね有効であると考えられる。

対象校が評価結果を受けたことによる効果・影響については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、前述の自己評価を行ったことによる効果・影響に加え、教職員への評価結果の内容の浸透、教育研究活動等の質の保証、学生や社会からの理解と支持、他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にすることについて、概ね有効であると考えられる。

評価結果の活用については、対象校から改善取組事例が挙げられていることから、

対象校が評価を手段として捉え、その結果をもとに実際に教育研究活動等の改善・向上に取り組んでいることがわかる。なお、機構としても引き続き各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要であると考えられる。

（７）評価の作業量等について

今回の評価の実施に係る作業量、作業期間がどうであったかを対象校、評価担当者の双方について検証を行った。

①評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の作成」（機関３－（１）－①）に関して、作業量については２校とも「とても大きい」と回答している。また、作業期間については、「とても長い」が１校、「適当」が１校となっている。

次に、「訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応」（機関３－（１）－②）に関して、作業量については、「とても大きい」が１校、「大きい」が１校であった。また、作業期間については、２～３週間程度の期間を設けているが、これについて「長い」が１校、「適当」が１校となっている。

続いて、「訪問調査のための事前準備」（機関３－（１）－③）に関して、作業量については、２校とも「大きい」と回答している。また、作業期間については、４週間程度の期間を設けているが、これについて「長い」が１校、「適当」が１校となっている。

次に、「訪問調査当日の対応」（機関３－（１）－④）に関して、作業量については、「大きい」が１校、「適当」が１校となっている。また、作業期間については、２校とも「適当」と回答している。

さらに、「意見の申立て」（機関３－（１）－⑤）に関して、作業量については、２校とも「適当」と回答している。作業期間については、４週間程度の期間を設けているが、これについても２校とも「適当」と回答している。

評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書の書面調査」（評４－（１）－①）「自己評価書の書面調査」に関して、作業量については、平均で 31.4 時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が 72%（「とても大きい」14%、「大きい」57%）、「適当」が 14%、「小さい」とする回答が 14%（「小さい」14%）であった。また、作業期間については、７月からの１ヶ月程度の期間を設定しているが、これについて「長い」とする回答が 43%（「長い」43%）、「適当」が 57%であった。

次に「訪問調査への参加」（評４－（１）－②）に関して、作業量については、平均で 14.4 時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が 33%（「大きい」33%）、「適当」が 67%であった。また、作業期間については、１校あたり２日間の日程としているが、これについて「適当」とする回答が 83%、「短い」とする回答が 17%（「短い」17%）であった。

さらに、「評価結果（原案）の作成」（評４－（１）－③）に関して、作業量については、平均で 8.9 時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が

43%（「大きい」43%）、「適当」が 43%、「小さい」とする回答 14%（「小さい」14%）であった。また、作業期間については、「長い」とする回答が 29%（「長い」29%）、「適当」が 57%、「短い」とする回答が 14%（「短い」14%）であった。

②評価に費やした労力について

対象校に対するアンケート調査において、評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったかについて質問したところ、「貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（機関３－（２）－①）か、「貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった」（機関３－（２）－②）かとの質問については、いずれについても２校とも「そう思う」と回答した。「貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった」（機関３－（２）－③）かとの質問については、「そう思う」が１校、「そう思わない」が１校であった。

評価担当者に対するアンケート調査において、評価に費やした労力が「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったかについて質問したところ、「対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（評４－（２）－①）かとの質問については、肯定的な回答が 86%（「強くそう思う」14%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が 14%、「対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった」（評４－（２）－②）かとの質問については、肯定的な回答が 86%（「強くそう思う」14%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が 14%、「対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった」（評４－（２）－③）かとの質問については、肯定的な回答が 71%（「強くそう思う」14%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が 14%、否定的な回答が 14%（「そう思わない」14%）であった。

③評価のスケジュールについて

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の提出時期（６月末）は適当であった」（機関３－（３）－①）か質問したところ、２校とも「適当である」であった。

また、「訪問調査の実施時期（10 月上旬～12 月中旬）は適当であった」（機関３－（３）－②）かとの質問については、２校とも「適当である」と回答した。

④評価と課題

評価に費やした対象校の作業量については、訪問調査当日の対応、意見の申立てに係る作業量は肯定的に評価されており、概ね適切であると考えられるが、自己評

価書の作成や「訪問調査時の確認事項」への対応、訪問調査の事前準備に係る作業量については、大きいとする回答が寄せられている。また、対象校の作業期間については、「訪問調査時の確認事項」への対応、訪問調査の事前準備、訪問調査当日の対応、意見の申立てに係る作業期間は肯定的に評価されており、概ね適切であると考えられる。しかし、自己評価書の作成に係る作業期間については、長いとする回答も寄せられている。一方、対象校が評価に費やした労力は、対象校から肯定的に評価されており、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと評価されている。これらのことから、対象校においては、評価の目的には概ね見合うと考えているものの、評価に費やす作業量、作業期間は大きい、長いと感じており、評価の効率化を図る必要があるが、対象校が評価の経験を重ねることによる負担軽減も期待される。なお、訪問調査の事前準備に係る作業量についての自由記述において、訪問調査時の面談に関する事項については、もう少し早めに通知して欲しいという意見も寄せられており、対象校に配慮した対応が必要である。また、評価に費やした労力に対し、認証評価結果に関して社会がどの程度関心をもっているのかについて疑問を感じるとの意見が寄せられており、社会に対する評価結果の認知度を高めていくことが求められると考えられる。

また、評価に費やした評価担当者の作業量及び作業時間については、訪問調査への参加、評価結果（原案）の作成に係る作業量及び作業時間は肯定的に評価されており、概ね適切であると考えられるが、自己評価書の書面調査に係る作業量及び作業時間については、大きい、長いとする回答も寄せられており、一定の負担軽減を図る必要がある。評価担当者が評価に費やした労力については、評価担当者から肯定的に評価されており、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと考えられる。

評価のスケジュールについては、対象校から肯定的に評価されており、自己評価書の提出時期及び訪問調査の実施時期についてはいずれも適切であると考えられる。

（８）評価についての全般的な意見・感想について

（１）～（７）に挙げたもののほか、評価全般について、対象校及び評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

・対象校からの意見・感想について

対象校から寄せられた意見・感想においては、機構の認証評価を受けた感想として、「事前の説明会・研修会を通して感じていた期待どおりであった」「説明会や研修会を通して事前の準備が問題なく実施できた」「訪問調査においても十分なサポートのもと、無事、評価結果をいただくことができた」等、期待どおりであったとする感想が寄せられた。一方、今回の反省点として「認証評価受審にあたって、全教員を巻き込んだ形でなかったことによって、教員間に認証評価に関する温度差が生じた」とする感想も寄せられた。

・評価担当者からの意見・感想について

評価担当者から寄せられた意見・感想においては、「勉強になった」と貴重な経験ができたとする感想がある一方で、「社会の理解と支援を得るために評価報告書をどのように社会に発信するかについて議論が必要に思われる」「評価全般が財務とは無関係に、教育の質だけを評価しているように思われるので、財務面の評価を強化すべきではないか」とする意見も寄せられた。

３．総括

本報告書では、アンケート調査した項目のうち、主要な８つの事項、「（１）評価基準及び観点について」「（２）説明会・研修会について」「（３）自己評価書について」「（４）書面調査・訪問調査について」「（５）評価結果（評価報告書）について」「（６）評価の効果・影響について」「（７）評価の作業量等について」「（８）評価についての全般的な意見・感想について」を、整理・分類し、分析・評価した結果をまとめている。以下にその概要を述べ総括する。

（１）評価基準及び観点の構成や内容は、高等専門学校の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね適切なものであると考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であると考えられる。

評価しにくい、内容が重複する評価基準又は観点については、平成23年度実施分より評価基準や観点を見直しており、今後も引き続き一定の時期に評価基準及び観点の見直しを行うとともに、『自己評価実施要項』の見直しなどを行い、対象校の評価基準及び観点の理解を深めるような工夫が求められると考える。

（２）認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会の実施内容や配付資料等、訪問説明や機構の事務担当者の対応は適切であると考えられる。

また、評価担当者に対する研修の実施内容や説明内容や配付資料、自己評価書のサンプルの提示、研修の時間は適切であると考えられる。

（３）自己評価書については、評価基準及び観点に基づいた適切な自己評価により、完成度が高く、わかりやすい自己評価書が作成されたと対象校が認識している一方で、一部の評価担当者からは記述内容の適切さや理解しやすさについて否定的な回答も寄せられており、引き続き対象校の評価基準及び観点の理解を深めることが必要である。対象校においても自己評価書の記述が明確で理解しやすいかなどを全基準を通してチェックする担当者を置くなどの対応が望まれる。なお、自己評価書の文字数制限は適切であると考えられる。

自己評価書の添付資料については、適切な根拠資料が概ね引用・添付されていると考えられるものの、既に蓄積した資料で対応できたかについては、対象校からは否定的な回答も寄せられている。この点については、対象校が評価の経験を積み重ねることにより、徐々に解消されると期待されるが、機構としても、研修会や説明会を通じて、自己評価書作成に当たっての留意点について資料や説明の工夫が必要である。

（4）書面調査による分析については、「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式は概ね適切であると考えられる。また、対象校の提出物以外の参考となる情報が必要かどうかについては、要望を把握していく必要がある。

また、「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校の回答は適切であると考えられる。

訪問調査の実施内容については、概ね適切であり、不明な点の確認や機構の評価担当者と対象校との間で教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができていると考えられるが、より効率的に訪問調査を実施するために、実施方法についての工夫が求められると考えられる。

訪問調査時の人数・構成等については、訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成、機構の事務担当者の対応は概ね適切であると考えられる。

（5）評価報告書の内容については、評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らして概ね適切なものであるほか、その内容や構成、分量、記載方法についても概ね適切であり、教育研究活動等に関して新たな視点が得られるなど、総じて概ね適切であると考えられる。

評価報告書等の公表については、対象校から公表していないとの回答が寄せられており、一部の対象校はアンケート回答後に公表しているものの、対象校においても社会からの理解と支持のために速やかに公表されることが望まれる。マスメディア等による報道の適切性については、一部の対象校から否定的な回答が寄せられており、認証評価制度や機構の行う評価の趣旨や内容について理解が得られ、適切に報道されるよう、引き続きわかりやすく説明していく必要がある。

今回の機関別認証評価において意見申立てを行った対象校はなかったが、意見の申立ての実施方法、内容や対応の評価報告書への記載については概ね適切であると考えられる。

（6）対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響については、教育研究活動等の現状や課題の把握、改善の促進、評価に関する教職員の知識や技術の向上、教育研究活動等の組織的な運営や自己評価の重要性の浸透や意識の向上、個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与について概ね有効であると考えられる。

対象校が評価を受けたことによる効果・影響については、前述の自己評価を行ったことによる効果・影響に加え、教職員への評価結果の内容の浸透、教育研究活動等の質の保証、学生や社会からの理解と支持のほか、他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にすることに概ね有効であると考えられる。

評価結果の活用については、ウェブサイトでの公表、広報誌への掲載といった回

答が寄せられており、今後も引き続き機構及び対象校の相互の取組により、各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要である。

（7）評価に費やした対象校の作業量については、訪問調査当日の対応、意見の申立てに係る作業量は概ね適切であると考えられるが、自己評価書の作成や「訪問調査時の確認事項」への対応、訪問調査の事前準備に係る作業量については、大きいとする回答が寄せられている。また、対象校の作業期間については、「訪問調査時の確認事項」への対応、訪問調査の事前準備、訪問調査当日の対応、意見の申立てに係る作業期間は概ね適切であると考えられる。なお、自己評価書の作成に係る作業期間については、長いとする回答が寄せられているものの、対象校が評価に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと考えられる。これらのことから、評価に費やす作業量・作業期間については、評価の効率化を図る必要があるが、対象校が評価の経験を重ねることによる負担軽減も期待される。なお、面談対象者の人数等の通知については、対象校に配慮した対応が必要である。また、より評価に費やした労力を評価の目的に見合うものにするため、社会に対する評価結果の認知度を高めていくことも求められると考えられる。

　また、評価に費やした評価担当者の作業量及び作業期間については、訪問調査及び評価結果（原案）の作成に係る作業量及び作業期間は概ね適切であると考えられるが、自己評価書の書面調査に係る作業量及び作業期間については、大きい、長いとする回答も寄せられているため、評価担当者の一定の負担軽減に向けた検討を行うことが必要である。評価担当者が評価に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと考えられる。

　評価のスケジュールについては、自己評価書の提出時期及び訪問調査の実施時期は適切であると考えられる。

（8）評価についての全般的な意見・感想については、対象校からは、機構の評価を受けた感想として、期待どおりであったとする感想が寄せられた。しかし、評価を受審するにあたって教員間で認証評価に関する取組に温度差が生じてしまったとする感想も寄せられた。

　一方、評価担当者からは、今回の評価を貴重な経験だったとする感想がある一方、社会からの理解と支持を得るために評価報告書をどのように発信するか、財務面の評価を強化すべきではないかとの意見も寄せられた。なお、後者の意見については、財務に関する基準を評価する専門部会に、高等教育機関において教育経験を有する評価担当者を一部参加させることである程度対応ができていると思われる。

今回の検証によって、これまでの検証を活かした改善が対象校、評価担当者に評価されつつあることがわかった。一方で、対象校、評価担当者双方から機構の行う現行の認証評価に対する意見・要望も見られたことから、更なる改善の必要性も示唆された。

認証評価の改善については、対象校が評価の経験を重ねることにより、自己評価書作成等の効率化が図られることが期待されるが、機構においても、寄せられた意見等を踏まえて、認証評価の趣旨の更なる周知や実施方法等に関する合理化、効率化の取組等について検討していくことが必要であると考えられる。

参　考　資　料

参考資料　目次

１　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】

２　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】

３　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】

４　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】

５　認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】

６　認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】

※　なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の高等専門学校や個人等が特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)
【対象校】(高等専門学校)

1. 評価基準及び観点について

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関1-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関1-	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関1-	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関1-	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		

【2:ある 1:ない】

		2	1	計	平均	未回答
機関1-	⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった	0	2	2	1.00	0
		0%	100%	100%		
機関1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	0	2	2	1.00	0
		0%	100%	100%		

2. 評価の方法及び内容について
(1)自己評価について

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関2-(1)-	② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた	0	0	0	2	0	2	2.00	0
		0%	0%	0%	100%	0%	100%		

【2:迷った 1:迷っていない】

		2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	1	1	2	1.50	0
		50%	50%	100%		

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	④ 対象校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた	0	0	2	0	0	2	3.00	0
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
機関2-(1)-	⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった	1	0	1	0	0	2	4.00	0
		50%	0%	50%	0%	0%	100%		
機関2-(1)-	⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		

【2:参考にした 1:参考にしなかった】

		2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした	2	0	2	2.00	0
		100%	0%	100%		

(2)訪問調査等について

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	③ 訪問調査時に機構の評価担当者(事務担当者を除く。以下同様。)が質問した内容は適切であった	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	④ 訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)は適切であった	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑤ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	1	0	1	0	0	2	4.00	0
		50%	0%	50%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑥ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		

（3）意見の申立てについて

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)-	① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(3)-	② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載したことは適切であった	1	0	1	0	0	2	4.00	0
		50%	0%	50%	0%	0%	100%		
機関2-(3)-	③ 対象校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった	0	0	0	0	0	0	－	2
		－	－	－	－	－	－		

3．評価の作業量、スケジュール等について

（1）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

＜作業量＞

【5：とても大きい～3：適当～1：とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(1)-	① 自己評価書の作成	2	0	0	0	0	2	5.00	0
		100%	0%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	③ 訪問調査のための事前準備	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	④ 訪問調査当日の対応	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	⑤ 意見の申立て	0	0	2	0	0	2	3.00	0
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		

＜作業期間＞

【5：とても長い～3：適当～1：とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(1)-	① 自己評価書の作成	1	0	1	0	0	2	4.00	0
		50%	0%	50%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	③ 訪問調査のための事前準備	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	④ 訪問調査当日の対応	0	0	2	0	0	2	3.00	0
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	⑤ 意見の申立て	0	0	2	0	0	2	3.00	0
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		

（2）評価作業に費やした労力について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(2)-	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(2)-	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(2)-	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	0	1	0	1	0	2	3.00	0
		0%	50%	0%	50%	0%	100%		

（3）評価のスケジュールについて

【2：適当　1：適当でない】

		2	1	計	平均	未回答
機関3-(3)-	① 自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった	2	0	2	2.00	0
		100%	0%	100%		
機関3-(3)-	② 訪問調査の実施時期（10月上旬～12月中旬）は適当であった	2	0	2	2.00	0
		100%	0%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4−	① 説明会の配付資料は理解しやすかった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関4−	② 説明会の内容は理解しやすかった	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関4−	③ 説明会の内容は役立った	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関4−	④ 自己評価担当者等に対する研修会の配布資料は理解しやすかった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関4−	⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関4−	⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関4−	⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関4−	⑧ 機構が行った訪問説明は役立った	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関4−	⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

(1)評価報告書の内容等について

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5−(1)-	① 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関5−(1)-	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	1	0	1	0	0	2	4.00	0
		50%	0%	50%	0%	0%	100%		
機関5−(1)-	③ 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関5−(1)-	④ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関5−(1)-	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関5−(1)-	⑥ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5−(1)-	⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関5−(1)-	⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5−(1)-	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		

(2)自己評価書及び評価報告書の公表について

【2:している 1:していない】

		2	1	計	平均	未回答
機関5−(2)-	① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している	0	2	2	1.00	0
		0%	100%	100%		
機関5−(2)-	② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している	0	2	2	1.00	0
		0%	100%	100%		

(3)評価結果に関するマスメディア等の報道について

【5:強くそう思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5−(3)-	① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた	0	0	1	0	1	2	2.00	0
		0%	0%	50%	0%	50%	100%		

６．評価を受けたことによる効果・影響について

（1）自己評価を行ったことによって、次のような効果・影響があったか

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(1)-	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができた	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進した	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立った	1	0	1	0	0	2	4.00	0
		50%	0%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進した	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑧ 対象校の個性的な取組を促進した	1	0	1	0	0	2	4.00	0
		50%	0%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		

（2）機構の評価結果を受けて、次のような効果・影響があると思うか

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(2)-	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができる	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進する	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立つ	1	1	0	0	0	2	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進する	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑧ 対象校の個性的な取組を促進する	1	0	1	0	0	2	4.00	0
		50%	0%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑫ 対象校の教育研究活動等の質が保証される	0	2	0	0	0	2	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる	0	1	1	0	0	2	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑭ 広く社会の理解と支持が得られる	0	1	0	1	0	2	3.00	0
		0%	50%	0%	50%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする	0	1	0	1	0	2	3.00	0
		0%	50%	0%	50%	0%	100%		

7．評価結果の活用について

（1）今回の評価（機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として課題として認識し、何らかの変更･改善を予定している事項（または実施済みの事項）について

（省略）

（2）今後、次のような事柄に評価報告書を用いる予定について（複数回答可）

1　対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
2　対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3　資金獲得のための申請書に記載する。
4　学生募集の際に用いる。
5　共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
6　その他（具体的に）

1	2	3	4	5
1	2	0	0	0

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）
【評価担当者】（高等専門学校）

1．評価基準及び観点について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評1－	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	1	5	1	0	0	7	4.00	2
		14%	71%	14%	0%	0%	100%		
評1－	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	0	6	1	0	0	7	3.86	2
		0%	86%	14%	0%	0%	100%		
評1－	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	0	4	3	0	0	7	3.57	2
		0%	57%	43%	0%	0%	100%		
評1－	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	2	4	1	0	0	7	4.14	2
		29%	57%	14%	0%	0%	100%		

【2：ある　1：ない】

		2	1	計	平均	未回答
評1－	⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった	4	3	7	1.57	2
		57%	43%	100%		
評1－	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	4	3	7	1.57	2
		57%	43%	100%		

2．評価の方法及び内容・結果について

（1）自己評価書について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2－(1)－	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	1	0	3	3	0	7	2.86	2
		14%	0%	43%	43%	0%	100%		
評2－(1)－	② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	1	1	2	2	0	6	3.17	3
		17%	17%	33%	33%	0%	100%		
評2－(1)－	③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	1	3	1	2	0	7	3.43	2
		14%	43%	14%	29%	0%	100%		

（2）書面調査について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2－(2)－	④ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	1	3	2	1	0	7	3.57	2
		14%	43%	29%	14%	0%	100%		
評2－(2)－	⑤ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった	1	1	5	0	0	7	3.43	2
		14%	14%	71%	0%	0%	100%		

（3）訪問調査について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2－(3)－	①「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	1	5	0	0	0	6	4.17	3
		17%	83%	0%	0%	0%	100%		
評2－(3)－	② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた	3	3	0	0	0	6	4.50	3
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
評2－(3)－	③ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）は適切であった	1	4	1	0	0	6	4.00	3
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		
評2－(3)－	④ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	3	2	1	0	0	6	4.33	3
		50%	33%	17%	0%	0%	100%		
評2－(3)－	⑤ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった	1	3	1	1	0	6	3.67	3
		17%	50%	17%	17%	0%	100%		
評2－(3)－	⑥ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった	3	2	1	0	0	6	4.33	3
		50%	33%	17%	0%	0%	100%		

（4）評価結果について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2－(4)－	① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	2	3	1	0	0	6	4.17	3
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
評2－(4)－	② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった	1	3	1	1	0	6	3.67	3
		17%	50%	17%	17%	0%	100%		

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(4)-	③ 評価結果全体としての分量は適切であった	1	4	1	0	0	6	4.00	3
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった	1	4	1	0	0	6	4.00	3
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		

3. 研修について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評3-	① 研修の配付資料は理解しやすかった	2	3	1	0	0	6	4.17	3
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
評3-	② 研修の説明内容は理解しやすかった	2	3	1	0	0	6	4.17	3
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
評3-	③ 研修の内容は役立った	2	3	1	0	0	6	4.17	3
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
評3-	④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った	2	3	1	0	0	6	4.17	3
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
評3-	⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった	1	4	1	0	0	6	4.00	3
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		

4. 評価の作業量、スケジュール等について

(1)評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について

＜作業量＞

【5：とても大きい～3：適当～1：とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(1)-	① 自己評価書の書面調査	1	4	1	1	0	7	3.71	2
		14%	57%	14%	14%	0%	100%		
評4-(1)-	② 訪問調査への参加	0	2	4	0	0	6	3.33	3
		0%	33%	67%	0%	0%	100%		
評4-(1)-	③ 評価結果(原案)の作成	0	3	3	1	0	7	3.29	2
		0%	43%	43%	14%	0%	100%		

＜作業期間＞

【5：とても長い～3：適当～1：とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(1)-	① 自己評価書の書面調査	0	3	4	0	0	7	3.43	2
		0%	43%	57%	0%	0%	100%		
評4-(1)-	② 訪問調査への参加	0	0	5	1	0	6	2.83	3
		0%	0%	83%	17%	0%	100%		
評4-(1)-	③ 評価結果(原案)の作成	0	2	4	1	0	7	3.14	2
		0%	29%	57%	14%	0%	100%		

(2)評価作業に費やした労力について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(2)-	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	1	5	1	0	0	7	4.00	2
		14%	71%	14%	0%	0%	100%		
評4-(2)-	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった	1	5	1	0	0	7	4.00	2
		14%	71%	14%	0%	0%	100%		
評4-(2)-	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	1	4	1	1	0	7	3.71	2
		14%	57%	14%	14%	0%	100%		

(3)評価作業にかかった時間数について

評4-(3)-	① 自己評価書の書面調査	およそ 31.4 時間
評4-(3)-	② 訪問調査の準備	およそ 14.4 時間
評4-(3)-	③ 評価結果(原案)の作成	およそ 8.9 時間

５. 評価部会等の運営について

【５：強くそう思う～３：どちらとも言えない～１：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評5-	① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	0	5	2	0	0	7	3.71	2
		0%	71%	29%	0%	0%	100%		
評5-	② 部会運営は円滑であった	0	6	1	0	0	7	3.86	2
		0%	86%	14%	0%	0%	100%		

６. 評価全般について

【５：強くそう思う～３：どちらとも言えない～１：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評6-	① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う	2	4	1	0	0	7	4.14	2
		29%	57%	14%	0%	0%	100%		
評6-	② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	1	5	1	0	0	7	4.00	2
		14%	71%	14%	0%	0%	100%		
評6-	③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	0	4	2	1	0	7	3.43	2
		0%	57%	29%	14%	0%	100%		
評6-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	1	4	2	0	0	7	3.86	2
		14%	57%	29%	0%	0%	100%		
評6-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	0	3	3	1	0	7	3.29	2
		0%	43%	43%	14%	0%	100%		
評6-	⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった	2	5	0	0	0	7	4.29	2
		29%	71%	0%	0%	0%	100%		

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
（高等専門学校）

１．評価基準及び観点について

○評価基準及び観点についての意見、感想など

・　評価基準及び観点は高等専門学校の教育を中心とした活動状況を網羅的に評価する項目として適切なものであると評価できる。

・　機関別認証評価受審における自己評価書の検討、作成の過程で本校の強みや弱みが浮き彫りとなり、学校全体についての改善を洗い出すことが出来た。そういう意味では、機関別認証評価は高等専門学校の教育活動を改善するツールとして優れていると考える。

２．評価の方法及び内容について

（１）自己評価について

③自己評価書に添付する資料で迷った点について

・　個人情報（名前など）が掲載されている資料に関して、添付すべきなのか訪問調査時の資料にすべきなのかの線引きで迷うことがあった。

○自己評価についての意見、感想など

・　評価基準及び観点についてどの程度厳密に捉えればよいのか、迷うことがあった。特に、評価基準の全体をとおして「仕組みがあるか」と「仕組みが機能しているか」に関する自己評価を行う必要があるが、「仕組み」の解釈が難しいと感じた。明文化された規則によって設置され、適切に議事録が残され、実施する責任者が存在するのが「仕組み」なのか、日常的な業務の中で明文化されていないが適切な指示、報告の下で行われているものも「仕組み」なのか、認証評価の求める「仕組み」の解釈しだいで、自己評価のあり方が大きく変わることを実感した。

・　自己評価書作成を分散することができず、特定の教員が記載せざるを得なかった。組織的に取り組む為の体制づくりが必要であったと反省している。

（２）訪問調査等について

○訪問調査等についての意見、感想など

・　本校では委員会等の議事録や成績評価資料等ほとんどの資料を電子化して管理、保管している。本校での訪問調査時に資料を閲覧するパソコンの台数が当初用意したものでは足りず、訪問調査に支障が生じる結果になってしまった。事前に訪問調査時に用意するものの相互のやりとりがもっとあれば、よりスムーズに訪問調査をして頂けたのではないかと思う。

・　評価担当者は、各人の役割を効率的にこなしておられたと感じました。質問事項も的確であったと感じます。

３．評価の作業量、スケジュール等について

（１）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

○評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についての意見、感想など

・　訪問調査において卒業生への面談があるが、卒業生の選定、所属企業への打診・調整があるため、スケジュール的に少し厳しい面があった。訪問調査時での面談に関する事項については、もう少し早めの連絡を希望します。

・　作成作業を各部署に分担させて記載して頂いたが、組織的に動けなかった。この為最終的に特定の教員が２ヶ月近く深夜まで作成する事となってしまった。また、エビデンス資料の収集・加工に多くの時間を取られる事になり、次回への反省事項として対応していきたい。

（２）評価作業に費やした労力について

○評価作業に費やした労力についての意見、感想など

・　評価作業に費やした労力は教育の質の保証や改善に役立つと評価するが、認証評価の結果が社会に公表されているとはいえ、認証評価結果に関して社会がどの程度関心をもっているのかについて疑問を感じる。

・　評価作業を通じて、本校の弱点・要改善事項を発見し、改善に結び付ける事が出来た。作業に費やした労力は、本校の改善に充分見合うものであったと思います。

・　主に担当したのは、教育点検委員会という組織であったが、より多くの教員を参画させれば改善に対する意識を共有できたのではないかと反省している。

（３）評価のスケジュールについて

○評価のスケジュールについての意見、感想など

・　自己評価書の作成時期、確認事項の回答を作成する時期、訪問調査の時期等、学校の年間予定と照らし合わせて適切な時期であると考える。

・　本校にとっては適切な時期であった。

４．説明会・研修会等について

○説明会・研修会等についての意見、感想など

・　説明会・研修会については、本校が認証評価を受審する前から何度も参加させて頂いているが、各会とも分かりやすい説明がなされていた。また、毎年参加することで、基準・観点についての考え方も深く理解することができ、有意義な説明会・研修会であった。

・　説明会・研修会については、非常に参考になりました。

５．評価結果（評価報告書）について

（１）評価報告書の内容等について

○評価結果（評価報告書）についての意見、感想など

・　評価結果については本校の教育研究活動を適切に評価して頂いた上で、適切な内容となっているが、内容は訪問調査時において既に伝えられているものであったので評価報告書をもって新たな視点が得られるものではなかった。

・　本校の教育研究活動を公平な目で判断して頂き感謝しています。

６．評価を受けたことによる効果・影響について

（１）自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

・　自己評価を行ったことによって、本校の教育研究活動の改善のためのＰＤＣＡサイクルの不備を明らかにすることが出来た。また、その過程で、特に校長、主事が現状把握と自然の方向性を認識できたといえる。

（２）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

・　現状では本校は評価結果の効果や影響は自己評価に関係した一部の教員と校長、主事にとどまっていると考える。自己評価結果や自己評価書を教員に提示しても、あまりに内容が広範囲であるため、全てに目を通すには無理があるし、その中からそれぞれの教職員が自己の課題を見つけ出すことが困難である。本校の場合、評価結果の活用をどのようにすればよいのか検討することが課題である。

７．評価結果の活用について

（１）今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

○主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【５：非常に参考になった～３：参考になった～１：あまり参考にならなかった】

（基準３）「教員及び教育支援者等」

・（課題）　技術職員のうち派遣職員に関しては、入札制度の契約の下では派遣会社の変更があるなど、教育の円滑な実施面や教員の過度な負担の面などで教育に支障をきたし、また、安全面でも懸念がある。

（変更・改善）　契約職員として継続性を担保できる方向で検討中。【３】

（基準６）「教育の成果」

・（課題）　教育目標の達成度の把握。

（変更・改善）　卒業生に対する卒業時アンケートの内容を改善した。【５】

（基準７）「学生支援等」

・（課題）　オフィスアワーのあり方。

（変更・改善）　本校の現状に合わせて、いわゆるオフィスアワーを無くし、学生がいつでも質問や相談出来る体制にした。【５】

８．評価の実施体制について

○評価の実施体制について、対象校が行っている方策・工夫等、その方策・工夫等についてよかった点、悪かった点、その他感想について

・　本校は平成 22 年度の機関別認証評価受審にあたり、全教員を巻き込んだ形で無かったことによって、教員間に認証評価に関する温度差が生じたことが反省点としてあげられる。

９．その他

○認証評価機関として機構を選択した理由、実際に評価を受けて期待どおりだったかについて

・　評価に関しては事前の説明会・研修会を通して感じていた期待どおりであった。次回の機関別認証評価においてもよろしくお願いします。

○その他、当機構の行う評価についての意見等

・　説明会や研修会を通して事前の準備が問題なく実施でき、また、訪問調査においても十分なサポートのもと、無事、評価結果をいただくことが出来た。今後とも高等専門学校の教育研究の改善にむけて評価事業を通じてご支援頂きたい。

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
（高等専門学校）

１．評価基準及び観点について

⑤評価しにくかった評価基準又は観点について

（基準２）「教育組織（実施体制）」

・　対象校では、１学科６コースを置いており、これまでの学科設置とは異なっていた。卒業生はいるものの、その評価は数年かかると考えられる。

（基準３）「教員及び教育支援者等」

・　基準３－３　そもそも、どのような教育支援者が必要か。また、それら適切な教育支援者の規模を適切に評価する基準がない。

（基準６）「教育の成果」

・　「教育の成果」についての考え方がよく分からなかった。

（基準 10）「財務」

・　観点 10－２－③。
・　基準 10 を切り離し、財務の専門家のみによる評価体制で、総合的に適正な評価が実施できるのか、やや疑問。

（その他）

・　一部回答の中にＪＡＢＥＥへの対応が記述されていたが、ＪＡＢＥＥとの差異がよく分からなかった。

⑥重複していると思われる評価基準又は観点について

・　高専の運営全体についての評価であるため、いろいろな基準で重なり合うところがあるのは仕方がないと思うものの、ある成果なり、システムなりをどの基準で判断するのが最適なのかが未だ明確に判断し難かった。
・　観点 10－２－①と 10－２－③。
・　観点２－２－①と 11－１－①の一部　教育課程に関する、検討・運営部分は重複すると思われる。

○評価基準及び観点について

- 毎年、外部競争的資金の獲得状況について議論がなされるが、教育研究活動等の促進の観点から、財務の観点の評価基準等に織込むのみならず、教育の観点にも獲得に向けた取組等について評価を行ってはどうか。
- 観点９－２－①、９－２－②は基準９－１内の観点と重複する所があり、評価しにくくなっている。この評価項目は、評価が導入された当初は十分に意味があったが、そろそろ見直しが要るのではないか。
- 社会から理解と支持を得るための適切性に関する評価基準や観点は、周知度や外部評価に関するもの以外はないので判断しがたい。この点に関しては、就職状況が唯一客観的な指標であり、また選択的基準にも社会からの高い理解と支援が得られる項目があるので、それらをまとめて、別途基準や観点を創出することが必要と思われる。また、高等専門学校という教育組織全体としてみれば、社会から理解と支持を得るための適切性の評価に関しては、高等専門学校機構自身の評価を何らかの形で行うことが必要ではないか。
- 教育の目的、目標など、かなり抽象的なものが多いと思います。また、各学校を見ても、特徴のあるものは少ない。そのような場合に、教育目的を学生に周知させていなくても、実質上ほとんど影響がないように思います。
- 基準全体は、いかにも理数系の人が、理路整然と作り上げたものに見え、隙がありません。ただ評価として、何か違和感を感じるところもあります。評価のための評価にならないように、気を付けていかなければと思います。
- 全般を網羅していると考えられる。

２．評価の方法及び内容・結果について

（１）自己評価書について

①高等専門学校の自己評価書の理解しにくかった点について

- 読んで判断することが大変だった。
- 自己評価書に記載すべき事項が定められていないので、各校がそれぞれの方法で評価しており、統一的に理解することが困難であった。
- 自己評価書の作成者に対する研修が必ずしも十分ではなかったのではなかろうか。基準や観点の内容を十分に咀嚼して、自校の取組を多面的に評価する姿勢が欠けているように見受けられた。
  研修の時点で、過去の事例を学ぶ際に、評判の良くなかった事例をも十分取り上げて、参考に供するような工夫が要るのではなかろうか。

③どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかについて

- 対象校の方が、本来評価されるべきものを適切に自己評価書に盛り込んでいなかったが、訪問調査でかなり改善されたと思う。
- 根拠資料についても、統一的に定めた方が良い。

【評価担当者】

・　根拠資料等の引用・添付は、ほぼ十分と思われた。むしろ、根拠資料を引用・添付する根拠の説明、考察が決定的に不足している例の方が多かった。

○自己評価書の様式についての意見、感想など

・　先行事例を十分吟味することを奨める。そのためには、学校側の自己評価書と機構側の評価報告書の対比を幾つか具体的に実施することを奨めてはどうか。

・　対象校が公立であることから、その組織についての理解に時間がかかった。

（２）書面調査について

④書面調査票等の様式で記入しにくかった点について

・　自分の意見を書く場所について分かりづらかった。

⑤書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について

・　財務については、少なくとも貸借対照表、損益計算書等（消費収支計算書）の過去５年間分の推移表を添付して欲しい。

○書面調査についての意見、感想など

・　訪問調査を意味のあるものとするために大切な調査であると思う。

・　自己点検評価にあたっては、いずれの学校も、ただ、観点及び評価基準に従って、淡々と記載をしているようにしか見えないが、教育の質の評価であることから、もっと積極的に学校が行う教育活動について、アピールするような記載がされるように期待する。

・　書面調査には、評価委員全員がオリジナルな意見を述べる機会があった方が良いのではないか。

・　読むのが大変です。資料も含めてのページ数の制限があればと思います。

・　対象校が資料をデータベース化している場合、事前に閲覧する方法があれば良いと思った。たとえば、事前にパスワードを機構が取得して、評価部会の会議の前や後に、委員がアクセス出来る方法はないものか。評価者の勤務地からアクセスするのではなく、あくまでも委員としてアクセスするという意味で。

（３）訪問調査について

③訪問調査の実施内容のうち、特に充実又は簡素化すべきものについて

・　一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談は、もう少し充実した方が良いと思います。とくに、一般教員等との面談は、もっと多面的であって欲しいと思います。

【評価担当者】

⑤訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の適切な人数や構成について

・　分野をカバーできることと有識者の数を倍増することが必要。

○訪問調査についての意見、感想など

・　訪問調査を行うことで、対象校への判断がとてもし易くなった。
・　訪問校の対応は非常に丁寧でした。
・　試験結果をチェックするのに、若干遅い、端末が不足などの問題がありました。
・　訪問調査は、予定通り進行したと考える。

（４）評価結果について

○評価結果についての意見、感想など

・　概ね適切な評価だったと思う。
・　評価結果が社会に広く知られる様になる工夫をすべきである。記者会見で紹介するだけでは、勿体ないのではないか。評価結果自身が妥当であるかどうかも含めた内容紹介の公開の場を持つなど、工夫が必要である。少なくとも、高等専門学校機構などに働きかけるべきではないか。
・　対象校のカリキュラムは１学科６コースというユニークなものであり、学生の意見を採り入れるＰＤＣＡサイクルによって、運用部分を変化させているので、成果などについて評価するには時間がかかる内容であった。

３．研修について

○研修についての意見、感想など

・　参考になった。
・　非常に良かったです。
・　第１回目の研修後の質疑時間が少なく感じられた。評価者研修に高専外から初めて参加する方の疑問は、評価者相互の質疑応答によって、高専教育の評価レベルを同じにする作用があると考える。

４．評価の作業量、スケジュール等について

（１）評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について

○評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についての意見、感想など

・　初めての経験だったためなかなか大変だったが、興味深いものだった。
・　最初の書面調査が、分量も多く、非常に大変でした。
・　作業期間などは、このようなものかと思います。
・　高専教員にとっての量は適量であるが、高専教員外の方にとっては多いのではないかと感じた。

（２）評価作業に費やした労力について

○評価作業に費やした労力についての意見、感想など

- 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質保証や改善に役立つことには、それなりに期待できるが、社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであったかについては、とくに、評価報告書の社会での認知状態が極めて低いと思われることから、極めて悲観的である。
- 評価報告書の認知度を高める工夫について、更なる努力を期待する。例えば、教育専門家や企業家などに加え、高専生や大学生に評価報告書の評価を求め、公開するなどを考えられないか。
- ユニークな取組を理解することに労力を費やした。評価に際しては、深く協議したと考える。

（３）評価作業にかかった時間数について

○評価作業にかかった時間数についての意見、感想など

- 評価作業には、集中的な時間が必要で、充実した作業ができた。
- 最初の書面調査は非常に大変でした。評価結果（原案作成）は、すべて自分で作成するとなると、非常に大変なことになるでしょう。

５．評価部会等の運営について

○評価部会等の運営についての意見、感想など

- 適切だった。
- 問題ありません。委員長、副委員長、委員、事務の方々へ、ありがとうございました。
- 適切かつ、円滑であったと考える。

６．評価全般について

○評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についての意見、感想など

- 勉強になった。
- 評価の目的は、評価対象者自身の活動の質の保証や改善に役立つと同時に、社会に広く知らせて、その理解と支援を得ることを含むとされる。

  評価報告書が当事者としての評価対象者に届き、その内容が評価対象者に十分に伝えられることで、評価の前者の目的が達せされることは十分に期待できる。

  しかし、社会に周知させ、社会の理解を得るという目的の点では、それがどの程度達成されているかの判断は難しい。むしろ、その判断がまともに追求されているとは思えない。

  評価という事業が、そして、その結果としての評価報告書が、どのように社会に認知されているかを、評価の実施者はもっと真剣に把握すべきではないか。評価報告書を世に出せば、それで使命は果たされたとする判断があるとすれば、そのような風潮を打破すべきではないか。

  少なくとも、評価報告書が、どのように社会に受け止められ、評価対象者に社会の方からどのようなメッセージなり評価が提起されたかを評価対象者達のみならず、評価の実施者達も把握する必要があるのではないか。

  社会の方にそのような動きが、表立ってみられないのであれば、何らかの形で、動きを捉える工夫をすべきではないか。終始、そのような動きがないのであれば、評価対象者の社会的存在意義が

問われることになると思われる。その上で、その社会的存在意義に問題がないことが明らかになれば、その場合は、評価実施者の存在意義が問われることになりはしまいか。

社会の理解と支援を得る目的の達成度評価をどのように進めるべきか、その前に、評価報告書をどのように社会に発信するかについて議論が必要に思われる。

・　財務評価に参加できなかったのですが、評価全般が財務とは無関係に、教育の質だけを評価しているように思います。高専そのものがほとんど国立高専であり、また評価委員も、民間の方も入れているとはいえ、やはり学位授与機構、国立高専の委員が主導になっているためしょうがないようにも思います。ただ私立高専の立場からでは、違和感のあることがあります。
・　対象校は近々組織改編があるので、現状から変化することが考えられる。

【評価担当者】

対　象　校

（高等専門学校用）

平成２２年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

貴校名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今回、当機構の評価を受けられて、どのように感じられたか、１～９の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また、記述式のものについては、学校名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

	強く そう思う (5)	←	どちらとも 言えない (3)	→	全くそう 思わない (1)	
回答例①　・・・・・・・・は、適切であった	5	4	3	2	1	3
回答例②　・・・・・・・・は、適切であった	5	4	③	2	1	

１．評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の推進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5) ← どちらとも 言えない (3) → 全くそう 思わない (1)	
① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	5　4　3　2　1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	5　4　3　2　1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	5　4　3　2　1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	5　4　3　2　1	

	ある	ない	
⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった	2	1	

→※⑤について、２とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	2	1	

→※⑥について、２とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

２．評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、（１）自己評価、（２）訪問調査等、（３）意見の申立ての３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）自己評価について

	強く そう思う (5)	←	どちらとも 言えない (3)	→	全くそう 思わない (1)	
① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた ------------	5	4	3	2	1	
② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた ------------	5	4	3	2	1	

	迷った	迷っていない	
③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	2	1	

→※③について、２とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた ------------	5	4	3	2	1	
⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった ------------	5	4	3	2	1	
⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった ------------	5	4	3	2	1	

→※⑥について、２又は１とご回答いただいた場合、どのくらいの文字数であればよいと思うかをご記入ください。

	参考にした	参考にしなかった	
⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした ------------	2	1	

・自己評価についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（２）訪問調査等について

	強く そう思う (5)	←	どちらとも 言えない (3)	→	全くそう 思わない (1)	
①　訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった --	5	4	3	2	1	

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

②　訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	5	4	3	2	1	

→※②について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

③　訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった ---	5	4	3	2	1	
④　訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）は適切であった--	5	4	3	2	1	
⑤　訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた --	5	4	3	2	1	
⑥　訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった ----------------	5	4	3	2	1	

→※⑥について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であると思うかをご記入ください。

⑦　訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う ------------	5　4　3　2　1	

・訪問調査等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（３）意見の申立てについて

	強く そう思う (5)	←	どちらとも 言えない (3)	→	全くそう 思わない (1)	
①　意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	5	4	3	2	1	

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

②　「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載したことは適切であった	5	4	3	2	1	

以下は、意見の申立てを行った対象校のみお答えください。

③　貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった	5	4	3	2	1	

→※③について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

３．評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、（１）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間、（２）評価作業に費やした労力、（３）評価のスケジュールの３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

	＜作業量＞ とても大きい(5) ← 適当(3) → とても小さい(1)		＜作業期間＞ とても長い(5) ← 適当(3) → とても短い(1)	
①　自己評価書の作成	5　4　3　2　1		5　4　3　2　1	
②　訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	5　4　3　2　1		5　4　3　2　1	
③　訪問調査のための事前準備	5　4　3　2　1		5　4　3　2　1	
④　訪問調査当日の対応	5　4　3　2　1		5　4　3　2　1	
⑤　意見の申立て	5　4　3　2　1		5　4　3　2　1	

・評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（２）評価作業に費やした労力について

	強く そう思う (5) ←		どちらとも 言えない (3)		→ 全くそう 思わない (1)	
① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった ----------	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった ----------	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった ----------	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（３）評価のスケジュールについて

	適当	適当でない	
①　自己評価書の提出時期（６月末）は適当であった （適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。）----	2	1	
②　訪問調査の実施時期（１０月上旬～１２月中旬）は適当であった （適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。）----	2	1	

・評価のスケジュールについてご意見、ご感想などをご記入ください。

４．説明会・研修会等について

認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5) ← どちらとも 言えない (3) → 全くそう 思わない (1)	
① 説明会の配付資料は理解しやすかった	5　4　3　2　1	
② 説明会の内容は理解しやすかった	5　4　3　2　1	
③ 説明会の内容は役立った	5　4　3　2　1	
④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった	5　4　3　2　1	
⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	5　4　3　2　1	
⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った	5　4　3　2　1	
⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った	5　4　3　2　1	
⑧ 機構が行った訪問説明は役立った	5　4　3　2　1	
⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった	5　4　3　2　1	

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

５．評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、（１）評価報告書の内容等、（２）自己評価書及び評価報告書の公表、（３）評価結果に関するマスメディア等の報道の３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）評価報告書の内容等について

	強く そう思う (5)		← どちらとも 言えない → (3)		全くそう 思わない (1)	
①　評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	5	4	3	2	1	
②　評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	5	4	3	2	1	
③　評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった	5	4	3	2	1	
④　評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった	5	4	3	2	1	
⑤　評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった	5	4	3	2	1	
⑥　評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった	5	4	3	2	1	
⑦　評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	5	4	3	2	1	
⑧　評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	5	4	3	2	1	

→※⑧について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が分かりにくかったかをご記入ください。

⑨　総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	5	4	3	2	1	

（２）自己評価書及び評価報告書の公表について

	している	していない	
① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している	2	1	
② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している ---------------------------------	2	1	

（３）評価結果に関するマスメディア等の報道について

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた --------------	5	4	3	2	1	

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

６．評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果･影響とに分けて質問しますので､それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「７．評価結果の活用について」で質問します。)

（１）自己評価を行ったことによって、次のような効果・影響がありましたか

	強く そう思う (5) ← どちらとも 言えない (3) → 全くそう 思わない (1)	
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた	5　4　3　2　1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	5　4　3　2　1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	5　4　3　2　1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	5　4　3　2　1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した	5　4　3　2　1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った	5　4　3　2　1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した	5　4　3　2　1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進した	5　4　3　2　1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	5　4　3　2　1	
⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	5　4　3　2　1	

・自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想などがありましたらご記入ください。

（２）機構の評価結果を受けて、次のような効果・影響があると思いますか

	強く そう思う (5)		← どちらとも 言えない → (3)		全くそう 思わない (1)	
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進する	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	5	4	3	2	1	
⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する	5	4	3	2	1	
⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	5	4	3	2	1	
⑫ 貴校の教育研究活動等の質が保証される	5	4	3	2	1	
⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる	5	4	3	2	1	
⑭ 広く社会の理解と支持が得られる	5	4	3	2	1	
⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする	5	4	3	2	1	

・機構の評価結果による効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

７．評価結果の活用について

（１）　今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを５段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。

		非常に参考になった(5) ←参考になった(3)→ あまり参考にならなかった(1)	
課題	（記入例） 【基準６】卒業生のアンケート結果から見て、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。	5　4　3　2　1	3
変更・改善	「外国語の能力」の達成度を向上させるため、平成 21 年度から、カリキュラムの充実、学習環境の整備を行うこととしている。		
課題		5　4　3　2　1	
変更・改善			
課題		5　4　3　2　1	
変更・改善			
課題		5　4　3　2　1	
変更・改善			

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください

（２）　貴校では、今後、次のような事柄に評価報告書を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1　貴校の広報誌に評価結果を掲載する。
2　貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3　資金獲得のための申請書に記載する。
4　学生募集の際に用いる。
5　共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
6　その他（具体的に）
（　　　　　　　　　　　　　　）

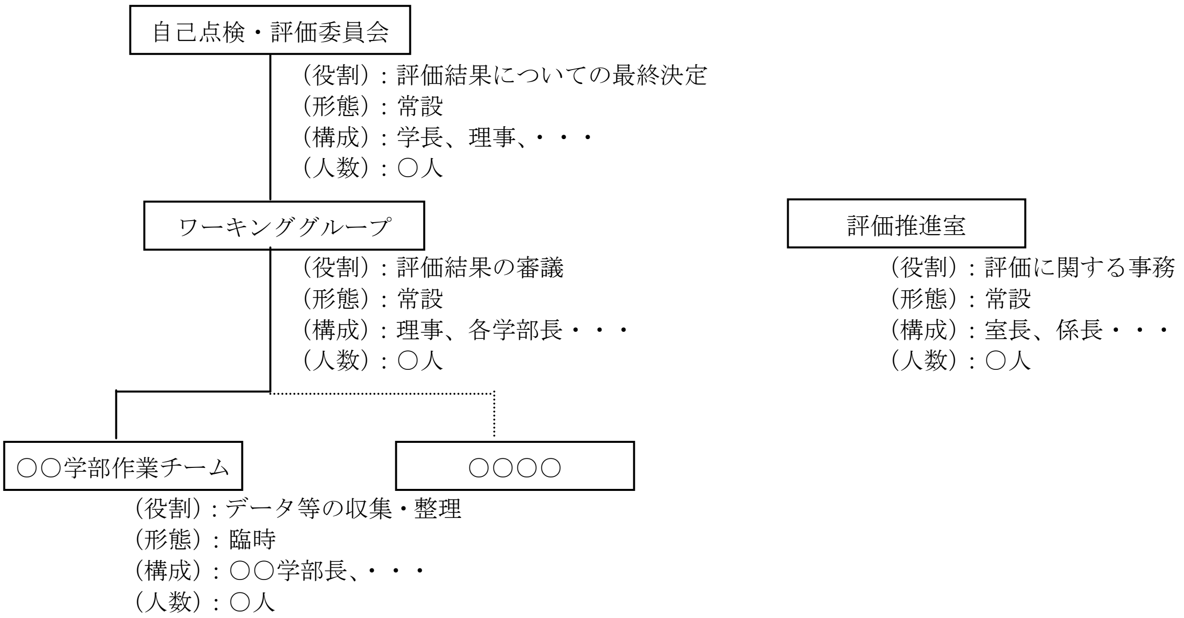
回答欄	

８．評価の実施体制について

貴校の評価の実施体制についてお教えください。今後の当機構の評価を、より効果的なものとするために参考とさせていただきます。

評価（自己点検・評価、認証評価等）を行うための実施体制について、その組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等をお教え下さい。「例」を適宜参考にし、わかりやすくご記入ください。（以下の「例」は削除して結構です。）既存の資料がありましたら、それを添付していただいて結構です。

（記入例）



他に具体的な説明等がありましたら以下にご記入ください。

評価の実施体制について、貴校が行っている方策・工夫等がありましたらお教えください。また、その方策・工夫等について良かった点、悪かった点等、その他ご感想についても併せてお教えください。

９．その他

認証評価機関として当機構をお選びいただいた理由や、実際に評価を受けて期待どおりであったかについてご記入ください。

その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました

評 価 担 当 者

（高等専門学校用）

平成２２年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

ご氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今回、当機構の評価に携わっていただいて、どのように感じられたか、以下の１～６の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また記述式のものについては、ご氏名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

	強く そう思う (5) ←		どちらとも 言えない (3)		→ 全くそう 思わない (1)	
回答例①　・・・・・・・・は、適切であった	5	4	3	2	1	3
回答例②　・・・・・・・・は、適切であった	5	4	③	2	1	

１．評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の推進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く そう思う (5) ← どちらとも言えない (3) → 全くそう思わない (1)

質問						
① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	5	4	3	2	1	

質問	ある	ない	
⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった	2	1	

→※⑤について、２とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

質問	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	2	1	

→※⑥について、２とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

２．評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（１）自己評価書、（２）書面調査、（３）訪問調査、（４）評価結果の４項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）自己評価書について

	強く そう思う (5)		← どちらとも 言えない → (3)		全くそう 思わない (1)	
① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	5	4	3	2	1	

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	5	4	3	2	1	
③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	5	4	3	2	1	

→※③について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想などをご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点などがあればお聞かせください）。

（２）書面調査について

④　機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった ---------------------

5　4　3　2　1	

→※④について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

⑤　書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった --

5　4　3　2　1	

→※⑤について、５又は４とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）であったかをご記入ください。

・書面調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（３）訪問調査について

	強く そう思う (5)	←	どちらとも 言えない (3)	→	全くそう 思わない (1)	
①　「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった --------	5	4	3	2	1	
②　訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた -------------------	5	4	3	2	1	

→※②について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が確認できなかったかをご記入ください。

③　訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）は適切であった --	5	4	3	2	1	

→※訪問調査の実施内容のうち、特に充実又は簡素化すべきものがあれば、ご記入ください。

④　訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた --	5	4	3	2	1	
⑤　訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった --	5	4	3	2	1	

→※⑤について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であるかをご記入ください。

⑥　訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった -------------------	5	4	3	2	1	

・訪問調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（４）評価結果について

	強く そう思う (5)	←	どちらとも 言えない (3)	→	全くそう 思わない (1)	
①　自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -	5	4	3	2	1	
②　基準１から基準 11 の評価で､基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった --	5	4	3	2	1	
③　評価結果全体としての分量は適切であった -------------------------------------	5	4	3	2	1	
④　評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった -----------------	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想などをご記入ください。

３．研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	←	どちらとも 言えない (3)	→	全くそう 思わない (1)	
① 研修の配付資料は理解しやすかった	5	4	3	2	1	
② 研修の説明内容は理解しやすかった	5	4	3	2	1	
③ 研修の内容は役立った	5	4	3	2	1	
④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った	5	4	3	2	1	
⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった	5	4	3	2	1	

・研修についてご意見、ご感想などをご記入ください。

４．評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、（１）評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間、（２）評価作業に費やした労力、（３）評価作業にかかった時間数の３項目に分けて質問しますのでそれぞれお答えください。

（１）評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について

	＜作業量＞ とても大きい(5) ← 適当(3) → とても小さい(1)		＜作業期間＞ とても長い(5) ← 適当(3) → とても短い(1)	
①　自己評価書の書面調査	5　4　3　2　1		5　4　3　2　1	
②　訪問調査への参加	5　4　3　2　1		5　4　3　2　1	
③　評価結果（原案）の作成	5　4　3　2　1		5　4　3　2　1	

・評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（２）評価作業に費やした労力について

	強く そう思う (5)	←	どちらとも 言えない (3)	→	全くそう 思わない (1)	
①　評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	5	4	3	2	1	
②　評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった	5	4	3	2	1	
③　評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（３）評価作業にかかった時間数について

評価作業にかかったのべ時間数（部会、訪問調査への出席を除く）について、以下の項目ごとに概数でお答えください。

①　自己評価書の書面調査	およそ		時間
②　訪問調査の準備	およそ		時間
③　評価結果（原案）の作成	およそ		時間

・評価作業にかかった時間数についてご意見、ご感想などをご記入ください。

５．評価部会等の運営について

評価部会、専門部会の人数や構成、運営について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)		← どちらとも言えない → (3)		全くそう思わない (1)	
① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	5	4	3	2	1	
② 部会運営は円滑であった	5	4	3	2	1	

・評価部会等の運営についてご意見、ご感想などをご記入ください。

６．評価全般について

評価を行ったことによる効果・影響など評価全般について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5) ←	どちらとも 言えない (3)	→ 全くそう 思わない (1)			
① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う	5	4	3	2	1	
② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	5	4	3	2	1	
③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	5	4	3	2	1	
④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	5	4	3	2	1	
⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	5	4	3	2	1	
⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった	5	4	3	2	1	

・評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

ご協力ありがとうございました。